

## 平成 30 年度 第 2 回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

<日 時> 平成 30 年 9 月 6 日 (木) 14:00~15:15

<場 所> 宇治市生涯学習センター 第 2 ホール

<出席者> (委員：18 人出席/23 人中)

安藤会長、迫副会長、岡本委員、小林委員、篠原委員、鈴木委員、妹尾委員、丹羽委員、吉井委員、稲吉委員、上西委員、岸委員、北川委員、弓指委員、杉本委員、松井(明)委員、松井(敏)委員、宮崎委員

(事務局：24 人)

教育部 伊賀教育部長、山本教育部副部長、市橋教育支援センター長、藤原教育部参事兼生涯学習課長兼生涯学習センター所長、栗田教育総務課長、吉田学校教育課長、金久一貫教育課長、福山教育支援課長

福祉子ども部 星川福祉子ども部長、澤田福祉子ども部副部長兼地域福祉課長、上道保育支援課長、田中保健推進課長、北尾子ども福祉課長、富治林生活支援課長、須原障害福祉課長、吉田保育支援課副課長、雲丹亀子ども福祉課副課長、山本子ども福祉課主幹、畑生活支援課副課長、野口保育支援課計画係長、平山保育支援課保育支援係長、次郎内子ども福祉課子育て企画係長、水野子ども福祉課子育て企画係主任、西村子ども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 1 人

<会議内容>

### 1 開会

【会 長】定刻になりましたので、会議を開会します。なお、本日の会議は「宇治市子ども・子育て会議の会議の公開に関する要項」に基づいて公開としています。

・事務局より、会議の成立確認報告及び配布資料の確認

【会 長】本日の会議では、議事に入る前に、京都文教大学臨床心理学部教授の寺田博幸先生に、「『子どもの貧困に係る諸課題』の現状」と題して、ご講演をいただくこととしました。本日の講演の趣旨等について事務局から説明をお願いします。

【事務局】昨今、子どもの貧困という言葉が、目や耳にされる機会が増えてきていると思います。国の

統計資料では、18歳未満の子どもの6人に1人が貧困状態にあるとされており、最近では、その対策として、子ども食堂や学習支援、居場所づくりといった様々な活動が、全国各地で展開されはじめています。本日は、このあとの議事の1つ目とも関連しますが、次の5か年計画を策定していくにあたり、子どもの貧困の状況などについて、この会議で共通の理解をもつことを目的に、事前に会長のご了解をいただき、長年にわたり教育・福祉の現場でもご活躍され、現在、子どもの貧困問題の研究・活動をしておられます、京都文教大学臨床心理学部教授の寺田博幸先生をお招きして、ご講演をいただくこととしました。

## 2 講演『子どもの貧困に係る諸課題』の現状

・京都文教大学 臨床心理学部 教授 寺田博幸 氏によって講演が行われた（資料別紙）。

【会長】 寺田先生、ありがとうございました。本日のご講演をきっかけに、今後この会議での議論を深めていくことができればと思いますので、皆さんよろしく願いいたします。

## 3 議事

### (1) 次期計画と子どもの貧困対策について

・事務局より、資料1「次期計画と子どもの貧困対策について」に基づき説明が行われた。

【委員】 先ほどの寺田先生のお話は、とても共感できました。私自身、同じような想いで、この間、居場所づくりであるとか、様々な取り組みをしてきています。今後の取り組みとして、現状を把握するための調査も大切ですが、具体的な活動にどう反映していくか、子どもの目の前で私たちがどのような現象を起こしていくか、そのムーブメントが最も重要だと思います。計画をいかに行動につなげていくか、今後の展開に期待したいですし、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

【委員】 今後実施される予定のニーズ調査ですが、前回調査の際に、中高生等も対象にしてはどうかという議論があり、今回、事務局で新たに対象として加えていただいたことは評価したいと思いますが、さらに妊婦さんを対象とした調査も追加してはどうでしょうか。今の講演をお聞きしていて、妊娠中の母親の不安感やストレスも、子どもの貧困に少なからず影響があると思っています。妊婦さんを調査対象に加えることで、妊婦さんの悩みや課題を把握できるほか、翌年度の0歳児の保育ニーズなども測れるのではないのでしょうか。

【事務局】 前回のニーズ調査も同じでしたが、今回のニーズ調査も、住民基本台帳から各年齢別に無作為抽出での調査を予定しています。現在、妊婦さんのデータベースというものがなく、同じ抽出方法による調査が採用できませんので、少し実施には課題があるように思います。ただ、宇治市では、今年6月から妊婦さんの全数面談に新たに取り組んでおり、その際に健康面を中心に対面でアンケートを実施しています。例えば、その対面アンケートの際に、妊婦さんの悩みや課題のほか、今後の保育所の希望を訊ねる項目を追加するなど、どのような取り組みが可能か、担当課と調整したいと思っています。

【委員】今日の講演の内容は、心を揺さぶられました。先ほど、別の委員からもありましたが、具体的な行動を起こしていくことが何より大切だと思いますし、私たち一人ひとりが小さなことでも良いので、どう行動を起こしていくか考えていかないといけないと思いました。

【委員】先ほどの妊婦さんの声を聴くという取り組みは良いと思いますが、あわせて、出産したあとに、近くに援助してもらえる人がいるかどうかを調査することはできないでしょうか。もし、そこで“近くに援助してもらえない”という妊婦さんがいたら、地域で取り組まれている様々な活動につなぐことで、地域全体で支えていくことができると思いますし、孤立化を防げるのではないかとと思います。前回のニーズ調査の回収率は約50%でしたが、見方を変えれば残りの50%の人の声が把握できていないのです。その残りの50%の人の中に、大きな課題を抱えている人がいるかもしれないのです。抽出調査では拾いきれない声を、どのように拾っていくか、今回予定しているニーズ調査とは別に、二本立てで考えていく必要もあると思います。

【事務局】先ほども紹介しました、今年6月からの妊婦面談事業ですが、すべての妊婦さんを対象に、専門職である保健師が面談する中で、産後、近くに援助してもらえる人がいるかどうか把握するようにしています。それを踏まえて、妊婦さんにどのような継続的にアプローチしていくか、産後どのように支援策やサービス・制度につないでいくかが課題だと思っています。また、ニーズ調査の手法は、前回とまったく同じである必要はないと考えています。子ども自身が回答する調査を行うことや、施設や事業者、活動されている団体等にヒアリング調査をすることも検討できるのではないかとと思います。調査の対象や手法について、どこまで実施するのか、この会議でのご意見を踏まえながら、また他市での実施状況なども参考にしながら、検討していきたいと思っています。

【委員】児童虐待の問題も待ったなしの状況です。先ほどもありましたように、ニーズ調査、計画本体の策定と並行して、アクションプランのような、具体的な行動にどうつなげていくかが本当に大切だと思います。

【会長】先日、第2子以降の出産時に、上の子どもを預かってもらえないという話を聞きました。出産でなくても病気やけがでの入院でも同様だと思います。大きな病院には、医療従事者のための保育施設もありますが、今後、入院患者さんのための保育施設というのも、必要になってくるのではないかとと思っています。先ほどの、妊婦さんの状況をどう把握していくかということもそうですが、今後、次期計画の策定作業を進めていくにあたっては、子どもの貧困対策も含め、それぞれの現場で何が起こっていて、何が課題なのか、委員それぞれが“イメージ”を持ちながら議論していく必要があると思っていますので、よろしく願いいたします。

(2) 平成 29 年度における「宇治市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況等について  
・事務局より、資料 2「平成 29 年度宇治市子ども・子育て支援事業計画」の内部調査結果、資料 2-1 具体的施策に対する内部評価結果一覧表、及び資料 3「平成 29 年度宇治市子ども・子育て支援事業計画」具体的施策評価シートに基づき説明が行われた。

【会 長】事務局から事前に送付していただいたとはいえ、資料のページ数も多く、すべての内容をご確認いただくのも難しいと思いますので、後日でも結構ですので、お手元の意見記入用紙で、事務局へご意見をお寄せいただければと思います。

(3) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について

・事務局より、資料 4「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について」に基づき説明が行われた。

【会 長】この内容は「報告」という扱いですか。

【事務局】子ども・子育て支援法に基づき、宇治市として利用定員を設定する際は、この会議でのご意見を踏まえてということになっていますので、何かご意見等があればお願いしたいと思えます。

#### 4 その他

・事務局より、議事(2)に関連する意見記入用紙の説明、10 月中に計画策定及びニーズ調査を委託する事業者と契約予定であること、次回の会議を 12 月中旬～1 月中旬で予定していること、また来年 3 月にはニーズ調査を実施予定であることについての説明が行われた。

#### 5 閉会